

(様式 4)

学 位 論 文 の 内 容 の 要 旨

(大 倉 千 幸) 印

(学位論文のタイトル)

**The long-term patient reported-outcomes of elbow, wrist, and hand surgery
for rheumatoid arthritis**

(関節リウマチの肘、手関節、手における術後長期の患者報告アウトカム)

(学位論文の要旨) 2,000 字程度、A4 判

目的：関節リウマチ (RA) の肘関節、手関節、手関節手術の長期的なアウトカムを調査するために、レトロスペクティブなアンケート調査を行った。

方法：2002 年 1 月から 2003 年 12 月までの間に、113 人の RA 患者が我々の病院で関節リウマチの肘、手首または手の手術を受けた。手術後 10 年間の結果を評価するために、手術部位について我々が独自に作成したアンケートを施行して患者報告型アウトカムを調査し、また the modified Stanford Health Assessment Questionnaire (mHAQ) も使用した。

結果:67 人の患者 (98 部位) から回答が得られた。手術後 10 年間で、the disease activity score 28-erythrocyte sedimentation rate (4) (DAS28-ESR (4))および患者の mHAQ スコアは有意な改善を示した。患者のほぼ 85%が手術部位での結果に満足していた。

症状改善の理由として最も多かったのは、すべての手術部位において「疼痛緩和」であった。「外観がよくなった」という報告は手指の手術後に多く、「力が強くなった」という答えが手関節および母指手術後に多く報告された。肘の手術に関しては、患者の 30%が動きと力の増加に満足していた。対照的に患者の約 20%は、肘と母指手術後に手術部位周辺の力が減少するという訴えもあった。

結論：我々独自の患者報告型アウトカム評価ツールは、肘と手関節と手の手術が RA 患者に長期にわたる利益をもたらしたことを明らかにした。手術部位によって有効性が異なっていたが、痛みの軽減が最も有利な効果であった。また、薬物療法の進歩も、患者の 10 年後の手術の結果に影響を与えた可能性もある。